

## 自分年金を考える② ～貯蓄額をイメージしよう～

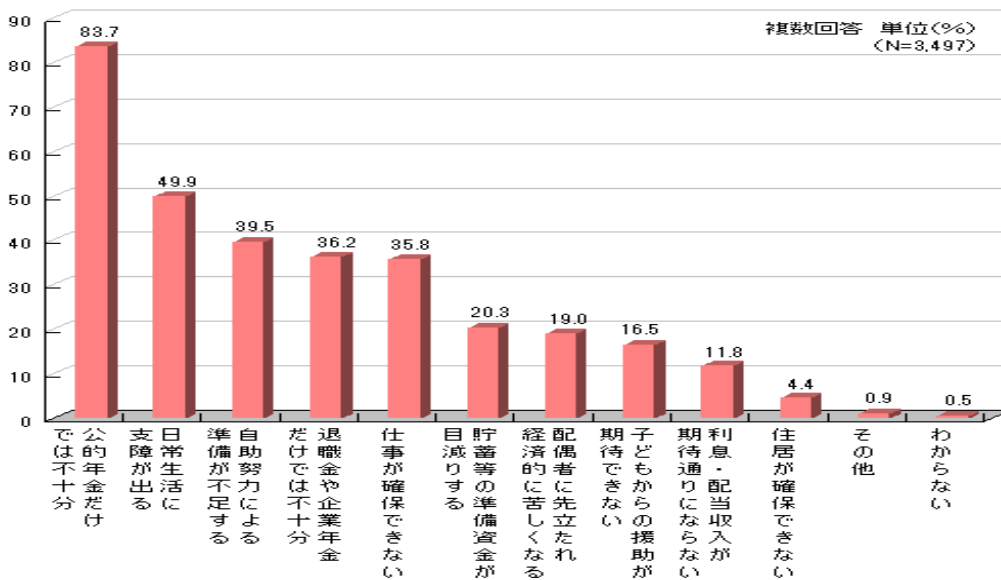
ファイナンシャル・プランナー 水野圭子

少子高齢化や運用難で将来もらえる年金事情は悪くなっているため、国や企業だけに頼って老後生活を送るのが難しくなっています。自助努力として老後資金準備をしている方もいる反面、貯蓄したいものの、貯められない方もいらっしゃいます。まわりの貯蓄額の状況などを見ながら、自分自身で貯蓄イメージをする方法などを見てみましょう。

### ■老後に対する不安とは？

老後に対して不安に思っている内容として、やはり約 8 割以上の方が「公的年金だけでは不十分」という結果が、以下生命保険文化センターの調査結果でもわかります。

[老後についての対する不安の内容]



\*生命保険文化センター「生活保障に関する調査」 平成 22 年度調査による

では、公的年金だけでは老後が不安だと感じる方が多い中、老後の備えとして、まわりではどの位貯蓄しているのでしょうか？気になるところです。

### ■まわりの貯蓄額はどのくらい？

総務省の家計調査によると、2011 年の平均貯蓄額は、2 人以上世帯の 1 世帯当たりの平均貯蓄額は 1,664 万円となっています。しかしこの金額は、一部のお金持ちが平均貯蓄額を

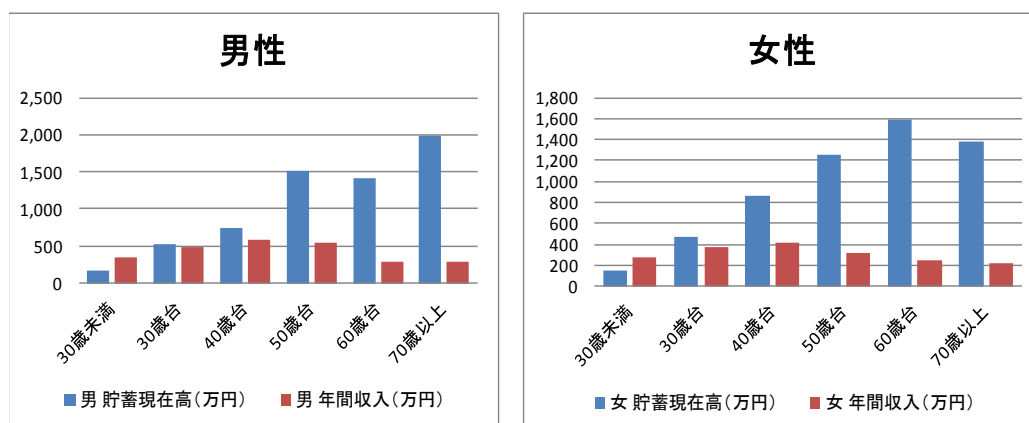
—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

引き上げているとも考えられます。

そのため、年齢別にもう少し細分化してある、総務省の家計調査「男女・年齢階級別貯蓄残高及び年間収入（2009年）」を見てみましょう。

### 男女・年齢階級別貯蓄残高及び年間収入(全世帯)



\* 総務省による世帯主の年齢別階級別にみた1世帯当たり一帯人員1人当たり平均所得金額<平成19年度による>

年齢が上がるほど貯蓄現在高も高くなり、特に60歳台以降の方は収入に対しての比率が高いのが顕著に表れています。しかし気になるのは、男性の40歳台までの貯蓄率が低い点です。この表は世帯主対象の調査結果ですので、一家の大黒柱である男性であれば、教育費や住宅費などが重なり、貯蓄ができにくくなっているのではないのでしょうか。年間収入の推移も年齢の上昇によって右肩上がりには増えていませんので、若い世代の方の今後の貯蓄残高は、全般に下がってくる可能性が高いと思われます。

若い世代の方に老後というとまだ先で現実味を感じていない方も多いですが、貯蓄残高をふやしていくには時間もかかります。早いうちからコツコツ貯めていくことが必要になってきます。

ただ人によって将来どのくらいの資金が必要になるのかが違いますので、まずは自分にとっての貯蓄額を知ることが必要かもしれません。

### ■将来への貯蓄額を予測してみる！？

将来への漠然とした不安を感じるだけでなく、これからどんなことにお金を使うのか、将来もらえるお金に対していくら位足りなくなるのかを予測してみることで、目標とする貯蓄額のイメージができることでしょう。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

カーナビは行先を入力すると行きたいところまで行けますが、地図も見ないで何となく運転しているだけだと、時間・費用・労力ともに多くかかります。

将来のイメージを具体的にできるツールとして、知るぽると（金融広報中央委員会）では、将来の暮らし向きを簡単に診断できる「生活設計診断」を無料で提供しています。このサービスでは、将来の家計のゆとり度をわかりやすい「お天気」のイラスト等にイメージして診断ができ、生活設計に馴染みが薄い方でも、簡単、気軽に利用できるサービスです。

必ず入力しなければならない項目は「世帯主の年齢」と「年間生活費」の2つですが、細かく入力することで、年表形式での将来予測や診断結果を見ることができるのです。詳しくは以下サイトを参照ください。

知るぽると：<http://www.shiruporuto.jp/tool/sindan/index.html>

気軽にまずは試してみて、将来への生活や貯蓄額のイメージをしてみると良いかと思いません。